

OSCE

目指せ！看護実践力アップ

R6.11.7-11.8,11.11-11.14

新卒者のうち希望者がOSCEを受講しました。模擬患者を設定し、「車椅子の移乗・移送」「酸素療法」「口鼻腔吸引」の演習を行いました。患者と目線を合わせ、「体調辛くないですか」と患者を気遣う声掛けや、わかりやすい説明を意識して関わっていました。



検査室へ患者を迎えに行き、フルネームで名乗ってもらうことに加え、リストバンドも確認しており、普段から確実な患者確認を意識していることが伺えました。酸素送気をしている患者の車椅子移乗では、酸素チューブにテンションがかからないよう、酸素を付け替えるタイミングや、酸素チューブの安全な位置を考えながら介助していました。



呼吸音など患者状態を観察し、アセスメントした上で吸引を実施しました。吸引時は適切なPPEの着脱と廃棄を意識していました。吸引後に「うがいしますか」と患者の不快感に配慮した関わりもみられていました。また、痰を出しやすいように手元にティッシュを配置するなど、安全かつ安楽な環境整備を行っていました。



演習後の振り返りでは、模擬患者より「吸引の準備中も目を離さず声をかけてくれて安心した」といったコメントがありました。また、評価者（看護職キャリア支援教育担当）と共にできている点、強化したい点を振り返り、「移乗前に酸素チューブの位置を調整する」「手指消毒の5つのタイミングを意識する」など、部署で実践できる具体策を検討しました。

